hispidum De Candolle f. *Tetrapoma* N.Busch, Fl. Sibir. Orient. Extr. II. p. 207 (1915).

Distr. Sibiria orient. & Manshuria bor.　　（北川政夫）

○奥山氏ノちやうしちく並ニうらじろなつはぜノ學名ニ關スル御意見ニ就イテ更ニ愚見ヲ述ベル

奥山春季氏ハ本誌一月號ニ於テちやうしちくニ偶然三ツノ同一新組合ハセノ學名ガ出來タニ就イテ、金平博士ト小田島氏ノモノトハ同年同月同日（昭和 11 年 3 月 30 日）ノ發表ダカラ、印刷日附ノ 3 日早イ（3 月 25 日）金平博士ノモノニ先取權ヲ與ヘテヨクハアルマイカトノ意見ヲ述ベラレタガ、ソレモ一ツノ考ヘ方デアルト思フ。シカシ又一方、小田島氏ノ發表サレタ熱帶農學會誌ヲ見ルト明カニ actual issue ヲ 3 月 24 日トシテアルカラ、コレヲ考慮ニ入レルナラバ、先取權ハ際ドイ所デ小田島氏ニ移ルコトトナル。

次ニうらじろなつはぜデアルガ、奥山氏ノ云ハレル様ニ "*Vaccinium Oldhami* var. *glaucum* (Nakai) Koidzumi ト解釋スレバソレデ問題ハナイノデアルガ" 私ニハ遺憾ナガラ、サウ解釋サレナイ明カナ三ツノ理由ガアル。ソノ第一ハ小泉博士ノ發表ニハ明カニ "n. var." ト記シテアルコト、第二ハ中井博士ノ *Vaccinium ciliatum* var. *glaucinum* Nakai 又ハ *V. ciliatum* var. *glaucum* Nakai ヲ Synonym トシテ引用シテナイコト、第三ハ朝鮮ニ於ケル産地ヲ擧ゲテナイコトデアル。ソレデ小泉博士ハ朝鮮産ノモノトハ無關係ニ發表サレタコトハ疑フ餘地ガナイ。私ノ發表ハ小泉博士ニ遲レルコト 80 日（採集者松田孫治氏ハ小泉博士ヨリ 2 ケ月前ニ私ノ學名ヲソックリ其ノ儘公表シテ居ルガ、コレハ謄寫印刷ダカラ、コレデハ物ガ云ヘナイ）、偶然學名ノ形式ニ於テ一致シタノデアルカラ、タトヘ私ガヨリ早イ有效名ヲ持ツテ來テ新組合ハセヲ發表シタトテ時既ニ遲イ。奥山氏ガ云ハレル様ニ "*V. Oldhami* var. *glaucum* (non Koidzumi) Honda トナツテ使ヘナイ" コトニナル。從ツテ奥山氏ガ新ニ提唱サレタ新組合ハセ *V. Oldhami* var. *glaucinum* (Nakai) Okuyama ニ私モ贊成スル。又うらじろなつはぜノ和名ハ小泉博士ノ發表ニハ松田孫治氏ガ名附親ノ様ニナツテ居ルガ、コレハ私ガ發表シタ様ニ中井博士ノ方ガズツト早イ。コレモ偶然ノ一致デアル。　　（本田正次）

○やまむぎ北海道ニ高飛ス

京都帝大大井次三郎氏ガ昭和六年ニ新種トシテ發表サレ、*Elymus villosulus* Ohwi（やまむぎ）ト云フ名ヲ與ヘラレタいね科ノ一種ハ信濃國霧ケ峰、甲斐國北岳ノ麓廣河原ナドニ限ラレテ居タガ、昨年八月、北海道十勝國池田町ニ採集サレタ。發見者ハ池田高等女學校ノ横山春男氏デアル。因ニ私ハやまむぎノ學名ヲ最近 *Clinelymus villosulus* Honda ト改メタ。　　（本田正次）